



生涯学習センターだより

2017. 12. 26 (火) 12月号 (2017年度第6号 : 通巻15号) 発行: 秋田県生涯学習センター

♪ 「音楽とわたし」

所長 高橋 保子

8月下旬、東京の代々木上原にあるムジカーザという120席ほどのホールに演奏会を聴きに行ってきました。こじんまりとしていますが音響がよく、しゃれた雰囲気のあるホールです。真夏なのにシューベルトの「冬の旅」。しかも、歌曲なのにサクソフォンとピアノで歌詞（ことば）もありません。

さて、「冬の旅」はシューベルトが亡くなる前年に作った歌曲であり、失恋した若者が街を捨てて、さすらいの旅を続けるという内容です。全24曲中16曲が短調であることから全体的に暗く人生に絶望した雰囲気に包まれた音楽ですが、6曲目の「菩提樹」だけは若者の幸せだった思い出が美しい旋律で奏でられていて、その甘美な雰囲気に救われた思いになります。

歌詞（ことば）のない「冬の旅」を聴きながら、音そのものからイメージを膨らませて若者と歩みを共にしたり、あるいは全く違う世界を自由に想像したり、自分なりの音楽による旅を続けました。冬という季節ではない、社会や自分の人生の冬であったりなど……。しかし、心のどこかに春が必ず来ることを思い描いているのです。

ある作曲家が次のようなことを語っています。「音楽は記憶と希望を呼びさますこともある。音楽のある場所で人は一人でないと感じます。」まさに、私にとって音楽は、時として過去の様々な思い出とともに夢や希望をもたらしてくれる宝物であり、生涯の友。そして、心のよりどころであります。これから先も演奏や鑑賞を通して音楽を楽しみ、音楽によって励まされ支えられていくでしょう。

皆さんにとって、心のよりどころとなるものは何ですか？



▲ 自主企画団体の活動を紹介します

今月号は、**ヤッホーの会**のみなさんです

「生涯学習ボランティア活動」とは何でしょうか。これが私たちのテーマです。毎月（原則として第4日曜日）集まり、午前中は定例会、午後は担当者が提供したテーマについて、話し合う学習会を行っています。この学習会を一般の人にも呼びかけた公開学習会も年数回開催します。

ヤッホーの会は、20数年前の生涯学習ボランティア養成講座とファシリテーター養成講座の受講生で立ち上げました。今年で20年になりますが、その間に、ボランティアを取り巻く状況は大きく変わりました。活動を始めた頃は、阪神淡路大震災の後でボランティアが注目されていました。

が、最近では社会の中でボランティアという言葉を使う機会も減っているように感じます。これからも、変化していく社会の中で、生涯学習ボランティア活動を通してどう生きていったら良いかを、そして生きがいを感じながら地域で暮らす方法を考えていきたいと思っています。



あきたスマートカレッジ クオリティ・オブ・ライフ「健康・福祉」パッケージ

12月2日（土）の第1回目では、スポーツ科学センターの森内厚志氏が「健康体操で身体ほぐし・心ほぐし～脳トレやストレッチ、有酸素運動を行うプログラム～」と題して、「円熟体操」を中心に仕上げ講義してくれました。

「円熟体操」とは、スポーツ科学センターで開催している「円熟塾」の内容で、ストレッチング、かんたん筋力トレーニング、全身持久力向上トレーニング等を行いました。「だれでも いつでも いつまでも」気軽に取り組める体操なので、年齢や運動経験の有る無しにかかわらず、個々の体力に合わせて無理なく取り組むことができました。リラックスした雰囲気の中、森内先生の温かくユーモアを交えたリードに、受講者の皆さんの心や体はぼっかぼか。終了後には、講師の周りに「出前講座の講師として来てくれないか」などの反響や要請が多く、充実のひとときでした。

12月9日（土）の第2回目では、NPO法人蜘蛛の糸の佐藤久男氏が「いのちを守り、いのちを支える～高齢者の選択縁～」と題して講話をしました。内容は自殺が社会問題として認識されるまでの経緯、国と県の自殺者数の推移、高齢化社会の「選択縁」などについてです。

受講者の皆さんの関心を最も寄せたのは、相談事例から学ぶ「いのちを守る心構え」に関する話でした。高齢者には特有の自殺要因があり、特に家族に対する精神的負担や心理的孤立を感じ、家族関係の悪化による体調不良や自殺念慮者が増えてきている事実を述べられました。

これに対し、受講者からの感想は「人に頼ること、お互いさま、サービスに頼るという意識を広げる大切さについて認識できた」「全ては自己肯定から始まる」「自分のよいところを宝物として生きていきたい」など、これからの心構えについてが大半を占めました。



♥ 地域活性化研修レポート(由利本荘市赤田地区)

10月20日（金）、由利本荘市赤田地区で開催した「地域活性化研修」に、「元気ムラ」の活動を担っている地元の人たちが協力してくれました。赤田地区では、高齢化と過疎化に強い危機感をもち、持続可能な地域づくりに積極的に取り組んできました。その一環として、拠点施設である東光館の隣接地に石窯を設置し、体験・交流の場として使用しています。

持続可能な地域づくりに補助金を積極的に活用し、石窯や直売所を設置してきたとのことでした。

研修の最後に、赤田町内の現地視察を行いました。直売所や加工所といった施設を見学したほか、長谷寺では有名な「赤田の大仏」を拝観しました。独特の歴史・風土と、時代に合わせた新しい取組が混在する姿に、学ぶことの多い一日となりました。

県内各地から参加した社会教育関係者からは、「人と人との交流の中で、知恵を出し合い、結び付ける工夫の必要を学んだ」「地場産業を使ったピザ作りは画期的で面白い」「住民が少ない中で様々なことにチャレンジする姿勢に刺激を受けた」などの感想があり、地域活性化のヒント発見や情報交流に役立ったようです。



♣ 自作視聴覚教材を募集中！

—秋田県自作視聴覚教材交流発表会：2月22日（木）開催—

会場 秋田県生涯学習センター

自作の視聴覚教材を出品してみませんか！ 多くの作品を見て授業に活かしてみませんか！

【募集部門】 ①小学校部門（幼稚園・保育所を含む） ②中学校部門
③高等学校部門 ④社会教育部門
※発表時間は、解説（制作意図等）と演示（上映等）をあわせて20分以内
※発表者・審査員・参加者による意見交換

【応募締切】 平成30年1月17日（水）

【応募方法】 作品に参加作品申込書を添え、下記までお届けください。
〒010-0955 秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター

※開催要項と募集チラシは、ホームページからダウンロードできます。

【表彰】

- (1) 全作品から最優秀賞・優秀賞を選定
- (2) 最優秀賞に選定された作品を次年度の全国自作視聴覚教材コンクールへ推薦